令和3年度　島田市立島田第二中学校

二中だより　7月号

☆校　　訓　　文化の薫る学校の創造

☆学校教育目標　「こころざしを持ち　自分の道を切り拓く生徒」

令和３年７月１日　発行

○３年生、最後の夏の大会に挑む！！

昨年度は中止となった夏の大会ですが、今年は、会場での感染報告もなく無事に大会が開催できていることに、卒業生の思いも含め２年越しの願いに、心から感謝したいと思います。６月末日時点ですが、女子卓球部の志太榛原大会団体戦優勝、おめでとうございます！その他にも、陸上部、女子バスケット部、サッカー部、男子バレー部も県大会出場おめでとうございます。そして、何よりも、勝っても負けても大会へ参加しチャレンジしてくれた全ての二中生に、校長として賛辞を送ります。合唱部・吹奏楽部の皆さんは、これからですが健闘を祈っています。やはり、皆から愛され応援される部が、県大会に出たり活躍したりすると、３年生のみならずみんなの気運が盛り上がり、学校全体が明るくなります。努力の大切さを学んだ皆さんが、これからの学校行事や自分の進路や学習等に素早く気持ちを切り替え、次のステージでも活躍してくれることを願っています。

○藤袴（フジバカマ）と「七夕の歌」山上憶良（万葉集）

アサギマダラ

皆さん、フジバカマという植物を聞いたことがありますか？名前の由来は、花が藤色で花びらが袴の形をしているからだそうです。紀元前１世紀頃から薬用植物として好まれ、桜餅のような香りで、昔は匂袋にしたそうです。さて、フジバカマの花には、アサギマダラというオスの蝶が集まります。アサギマダラは「旅する蝶」として知られ、国内をはじめ、台湾・中国等との行き来も広く知られています。中には 2500 km以上もの長旅をするものもいるそうです。近年、この蝶の飛来ルートを全国的に研究する活動が盛んになり、フジバカマ等が日本各地で栽培されています。９～10 月頃には、フジバカマの花を見ることができるそうです。川根在住の方の御厚意で、この苗を二中のビオトープに植えることができました。いつか、二中にアサギマダラが飛来する日がくることを楽しみに待っています。

また、藤袴は、奈良時代(710 年～794 年)に山上憶良によって「秋の七草」で歌われています。憶良は、「白村江の戦い(663 年)」後、百済滅亡に際して渡来し、律令国家の礎を築いた天智・天武天皇の侍医を務めた父の子です。万葉集は、現存する日本最古の和歌集で、天皇・貴族・下級官人・防人・大道芸人・農民・東国民謡等、さまざまな身分の人々が詠んだ歌が収められ、７世紀前半から約 130 年間の歌が収録され成立は 759 年ごろと言われ、編纂は大伴家持と言われています。1300 年以上前の庶民から天皇までの歌を収めた「万葉集」の存在は、ただただ、驚くしかありません。憶良の歌の中から、私が選んだ以下の３つの歌を紹介します。

（七夕の歌十二首から）

- **「たぶてにも　投げ越しつべき　天の川　隔てればかも　あまたすべなき」**
  （小石でも投げれば向こう岸に届きそうな天の川なのに、川で隔てられどうもできません）
  →60 歳を超えて太宰府に赴任した憶良の京への思いが込められていると言われます。大宰府の官人は奈良や京や故郷に親や妻子を残している者が多く、愛しい人に逢いたくても逢えない七夕の歌は、自分の境遇とも重なって当時共感を得たのではないでしょうか。

- **「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七草の花」「萩の花　尾花(ススキ)　葛花(クズ)　撫子の花(ナデシコ)　女郎花(オミナエシ)　また藤袴　朝がほ(キキョウ)の花」**

- **「銀(しろかねも)も　金も玉(くがねもたまも)も　何せむに　勝れる宝　子にしかめやも」**
  （銀も金も宝石も、どうしてそれより優れる子供（という宝）に及ぶだろうか。いや及ばない）

島田第二中学校長　池谷　英人